

撤退田圃

いなだそういちろう
稲田宗一郎

2015年 春

「賢一さん電話です」

美紀は、ちょっと首をかしげてこちらを向いて言った。

「誰からだ？」

「東都経済産業新聞の高田という方ですが、つながりますか？」

「東都経済産業新聞？ うん、つないでくれ」

賢一は一瞬考える表情を浮かべたが、

「曾根ですが、要件はなんでしょうか？」

と気持ちを整理するように言った。

「私、東都経済産業新聞の高田というものですが、実は、先日、東都テレビで放送されたコメの特集番組で、曾根社長がロイズファームと共同出資し、政府の農地中間管理機構を活用した大規模稲作農業を展開し

ている報道を見たものですから、お時間があれば、曾根さんの経営を取
材したいと考えていますが、可能でしょうか？」

「東都テレビ、アッー、先週放映されたやつですね」

と少し間をおいてから、

「わかりました。取材をお受けします」

と丁寧に答えた。

賢一の元には今年に入ってから、雑誌、テレビ等の取材と講演依頼が
増えていた。

「ところで、具体的にどんな事をお聞きになりたいのですか？」

「まず、現在、政府が推し進めている『攻めの農業政策』に対する現
場からの率直な意見、規模拡大の経緯と経営内容、それと、将来の日本
農業の進むべき方向などです」

「わかりました。要するに、現在の農業政策を有効に活用し、政府の『攻
めの農業』を実践している法人経営の例として我が社を取材したいと言
うことですね」

「ハイ、わかりやすく言えばその通りです。それとロイズファームと
共同出資したライスランド名島の設立経緯についてもお聞きできればと
思っています」

「わかりました、いつ頃が都合がよいのですか？」

「できれば、今、弊紙が朝刊の一面で連載している『農業改革への挑戦』
に取り上げたいと考えているので、今週末あたりにお問い合わせしたいので
すが？」

「今週末ですか？ わかりました、では、恐縮ですが、金曜日の15時
に名島市の弊社の事務所でお願ひします。時間は2時間程度でかまいま
せんね」

「ハイ、よろしくお願ひします」

「ハイ、こちらこそ、よろしく」

賢一は丁寧に礼を言って電話を切り事務所をでた。

ひと雨来そうな黒い雲が朝日岳の方向に広がっていた。

賢一は、ポケットからタバコを取り出しライターで火をつけ、大きく空中に煙を吐いた。煙は賢一の右斜め上でスーとまとまり空中に漂っていたが、徐々に形が崩れ消えて行った。

金曜日の15時少し前に東都経済産業新聞の高田が事務所に取材に来た。

「曾根社長、まず、貴社の経営概要についてお聞かせください」

「ここに簡単なパンフレットあるのでこれを参考に説明します」

賢一は高田記者にパンフを渡した。

「ハイ、よろしくお願いします」

「まずは経営面積ですが、本社のライスランド西川は、全部で65ha、そのうちの62haにコメを作付しています。コメは主食用、加工用、今年から飼料米を作付しています。品種は姫こまち、はえぬき、ひとめばれ、あきたこまち、コシヒカリ、べこあおば、それともち米の出羽きりりなどです。主食用が70%、加工用が20%、飼料米が10%といったところ。今後、政府が推奨している飼料米を拡大しようと思っています」

高田は頷きながら、

「飼料米を増やす理由は何ですか？」

と聞いてきた。

「補助金も含め10aあたり10万円と高いことです」

「そうですか？ 主食用の価格はいくらぐらいなのですか？」

高田はなんの遠慮もなく聞いてきた。

賢一は少し表情を変えて、

「品種や栽培方法にもよりますが、1俵あたり13,500円くらいかな」

「販売先はどこですか？」

「売先はいろいろです。業務用もあれば、直接スーパーにも販売して

いるし、農協にも売っています」

「農協にも売っているのですか？」

高田は、やや驚いた表情で聞いてきた。

「ハイ、あらふね農協は全農ルートの他に農協が独自ルートでスーパーに直販しているのでリスク分散もかねて販売しています」

「それ以外のルートは？」

「それ以外は、少しでも有利販売につなげるために、個人で特別栽培米農産物認証をとり、ライスセンター、精米工場も自前で所有し、乾燥、精米してリゾンなどのスーパーに直接販売しています」

「リゾンにも直接販売しているのですね。今後は、農協を通さない販売チャンネルが増えると考えてよいですか？」

「おそらく、今後、コメはだぶつくと思うので、ロイズなどのおにぎりを含め販売先を増やそうと考えています」

「ロイズですか。だからロイズファームと共同出資してライスランド名島を設立したのですね」

「そうです。今は、P県では4haのコメを生産してロイズに販売していますが、将来的には、TPPで輸入米が85万t程度に増加して米価が下落することを想定し、4、5年後の2020年以降はP県で野菜の生産を開始しようと考えています」

「なるほど、今後を考えれば、コメだけではなく、野菜も生産し、大型の量販店やコンビニとの直接取引拡大を目指すと言う事ですね」

「マア。そんな感じですね」

高田は、自分の思惑通りに賢一が答えたのに満足し、次の質問に移っていった。

「曽根社長、現在の経営での問題点がありましたら教えてください」

「そうですね、一つは労働力の問題、もう一つは、ライスランド名島で経験した他県での借地農地です」



「もう少し具体的にお願いします」

「わかりました。最初の労働力の問題ですが、現在米価は13,500円程度ですが、将来、米価はもっと下がると考えています。そうになると、日本人労働者の賃金ベースでは経営が難しくなってきます。この対応をどうするか一つの課題です」

「それについては、今でも外国人労働者は雇用できるのでありませんか？」

「今の制度でも技術研修生という形ならできますが、正式に農業労働者としての雇用になるとダメです。今、農業に雇用されている外国人労働者は潜りですよ」

「つまり、制度自体が灰色ってことですね、曾根さんとしては、国が大規模農業を実現したいのなら、外国人労働者に農業労働市場を開放して欲しいってことですね」

「そうです、できれば、国に早急な法整備をお願いしたいところです」

高田も同じ意見だと見えて大きく頷き、

「この件はしっかりと記事に書き込みます」

と続け、

「他県での借地の件は？」

と聞いてきた。

「実は、高田さんもお存じのように、昨年から、P県でロイズファームと共同出資型の農業生産法人を作り、4haの農地を借りコメを生産・販売しています。3年以内に15haくらいまで農地を集積したいと考えています。ところが、地元でないP県で農地を借りるとなると大変なのです」

「どうしてですか？ 国は、確か、全国農地ナビを構築し、インターネットを介して農地情報を全国に配信し、法人の農地集積を支援しているのではないですか？」

高田は自信を持って答えた。

「確かに、全国農地ナビはありますが、利用してみるとナビには借地候補が少ないのです」

「借地候補が少ない？」

「そうです、多くの県では借手と貸手がセットでないと機構では扱わないので、ナビには案件が少ないのです。おまけに、国は、農地中間管理機構への農地集積が進まないものだから、一度、却下した従来の円滑化事業からの付替えを認め、J県のある法人は、書類の書き換えで、二億の農地集積金と経営転換金を受け取ったようです」

「そんなことがあるのですか？ 税金の無駄使いじゃありませんか？」

「そうなりますね。国は、面子にかけても、農地中間管理事業を実現させるために必死なっています」

高田の目が一瞬動いた。

賢一はその変化に気が付き、

「高田さん、農地ナビ、中間管理事業に興味がおありなら、現場に詳しい役場と農協の友人を紹介しますよ」

と付け加えた。

「ありがとうございます。この取材が終わったらお願いします。農地ナビや農地中間管理機構が曾根さんの指摘のようだと、法人の全国規模の農地集積は難しくなりますね。また、同時に、中間管理事業が当初の目的を達成していないとなると、また、税金の無駄使いになりますね」

「そうです。他県での農地集積は地元と比べてコストもかかり経営上のリスクも高くなりますからね。また、農地中間管理事業自体が、家族経営が中心の稲作農家の心理とマッチしていないのかもしれない。困ったものです」

「なるほど……」

高田は数回ほど頷きながら腕を組み考えていたが、思いついたように、

「そうだ、曾根さん、農協組織が他県での農地集積を斡旋すればよい



のではないですか？」

と、突然、大きな声をだした。

「それは、難しいですね。農協は地域の農業は地域で守るのが基本ですから」

「それは農協のエゴでしょ、曲がりなりにも全国組織、県組織があるのですから、国の政策に協力すべきですよ。それをやらない農協組織は、世論や政府から金融・共済の農協と思われ、5年後にまた改革を迫られますよ」

賢一は高田の指摘はもっともだと思った。

「残念ながら、高田さんが指摘したようにはならないでしょう。農協組織はあなたが思っている以上に古いのですよ」

「そうですね、そこが問題ですね。いろいろありがとうございました。今回の取材を踏まえ、最後は、古い農協体質ってどこでまとめたと思いますか、そんな方向で良いですか？」

高田は冷めたコーヒーを飲みながら言った。

「はい、その方向でお願いします」

賢一はこう言ってしまってから妙な後ろめたさを感じていた。

「最後ですが、国は、TPPを受け入れた訳ですから、国はその対策費から、飼料米への補助金を少なくとも10年、いや5年程度は続けて欲しいとの強い要望があったと記事にしてください」

つづく